

畜産ネットワーク ちば

千葉県における口蹄疫対策と 畜産に係る計画について

千葉県農林水産部畜産課
課長 山端 輝一



千葉県畜産協会の会員の皆様には、日ごろから本県畜産の振興に御尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年度は、年度当初の4月20日に宮崎県において

◆家畜衛生関係者、畜産関係者への周知（平成22年4月20日～実施）

- 飼養家畜について毎日健康観察を行い、飼養家畜に異常が認められた場合は直ちに、家畜保健衛生所へ通報するなど、早期発見・早期通報を行うことをお願いしました。
- 偶蹄類の家畜を飼養する農場に立ち入る際には、車両や器具器材の消毒の徹底、衣服・長靴・手袋等の専用化や単回使用等によりまた延防に十分留意するよう注意を喚起しました。

◆緊急調査の実施 1回目：平成22年4月20日～28日 2回目：平成22年6月10日～14日

- 県内の偶蹄類家畜飼養全農場1,604戸を対象に、関係機関との連携のもと、異常家畜がいないか緊急調査を実施しました。その結果、県内の家畜で異常は認められませんでした。なお、現在のところ、県内で異常を示す家畜は確認されておりません。

◆口蹄疫防疫体制強化緊急対策事業の実施（平成22年5月25日）

- 牛や豚などの飼養農家に対し消石灰の購入を補助し、併せて県内の家畜保健衛生所に対し防疫資材の追加備蓄を実施しました。

◆口蹄疫防疫対策演習の実施

- 宮崎県への派遣職員からの報告に基づき、千葉県の防疫体制を再確認するため、家畜保健衛生所における口蹄疫の病性鑑定の流れや、県庁内における最初の通報から県口蹄疫防疫対策本部設置までの一連の動きを確認しました。

◆埋却地のリストアップ

- 宮崎県の事例では、埋却地の選定が大きな問題になったことから、万一に備え、埋却可能と判断される国有地、県有地、民有地を約900か所、約650haを緊急的にリストアップしました。

さて、現在の畜産情勢については、「飼料価格の高止まり」や「景気後退による畜産物価格の低迷」と、依然として厳しい状況に置かれています。

平成22年度の千葉県の畜産は、本年3月に公表した千葉県総合計画「輝け！ちば元気プラン」に基づき、施策を組み立て、関係事業を実施しているところです。

平成19年度に平成22年度を目標年度として作成した「畜産緊急戦略」が終期を迎えるとしており、現在、緊急戦略の達成状況を検証しながら、千葉県総合計画の部門別実行計画となる「畜産振興計画」を新たに作成し、下記の計画項目を立て、平成23年度予算事業に反映させるべく努力しているところです。

◆共通課題 ①飼料自給率の向上による飼料の安定確保。②千葉県産の畜産物の知名度向上による、需要の喚起。③堆肥の新たな需要の開拓、地域外流通等による堆肥需給バランスの調整。④悪性伝染病等に対する危機管理体制の強化。

◆部門別課題 ①乳牛においては、個体能力のさらなる向上。②肉用牛においては、肉質を重視した上での和牛の増頭。③豚においては、養豚経営安定制度の強化。④鶏においては、需要に見合った鶏卵生産による経営の安定化。

◆課題の解決 ①生産性向上・経営安定のための生産基盤の整備。②自給飼料の生産拡大による飼料自給率の向上。③県産畜産物の魅力発信。④家畜排せつ物の適正管理と有効利用。⑤家畜衛生対策の強化。

2010年8月31日

第19号

発行所 (社) 千葉県畜産協会
〒260-0026
千葉市中央区千葉港4番3号
千葉県畜産会館内

発行人 森 英介

て口蹄疫が発生しました。5市6町で292例、211,608頭（牛：37,454頭、豚：174,132頭、山羊：14頭、羊：8頭）の患畜及び疑似患畜の発生があり、ワクチン接種後処分対象家畜とともに、28万9千頭の殺処分・埋却処分等防疫措置はすべて終了し、7月27日に発生農場周辺の移動制限、搬出制限区域がすべて解除されました。

千葉県では、口蹄疫の発生防止対策とともに、万が一の発生に備え、次のような対策を講じたところです。

宮崎県の畜産農家の皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の経営再開と畜産業の再建がなされるようお祈りいたします。

もくじ

- ・千葉県における口蹄疫対策と畜産に係る計画について …(1)
- ・防疫派遣体験記「明けない夜はない」がんばれ宮崎！ …(2)
- ・価格補償事業補てん金単価について …(3)
- ・日本養豚協会（JPPA）統合後初の総会開催される …(3)
- ・千葉県畜産フェア 10月2日（土）は船橋競馬場へ!!
『千葉の畜産を“食べよう”“話そう”“知ろう”』 …(4)
- ・安全！安心！美味しい！千葉の畜産 …(5)
- ・飼料用米で特徴ある畜産物生産を …(6)
- ・ちば畜産レディースネットワーク会報 …(7)
- ・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信 …(8)
- ・「食の安心・安全」は「法令遵守」から …(8)
- ・編集後記 …(8)

防疫派遣体験記「明けない夜はない」頑張れ宮崎！

千葉県南部家畜保健衛生所 防疫課 片山雅一

2010年4月20日「宮崎県において口蹄疫の疑似患畜が発生」というニュースを私は農場に向かう公用車のラジオで耳にしました。そして、その後未曾有の防疫活動が展開されるのでした。

1 家畜防疫員の派遣

千葉県は家畜伝染病予防法に基づき4月28日～7月3日まで交代で獣医師を宮崎に派遣しました(派遣期間1週間)。農林水産部関係13名(すべて家畜保健衛生所職員)、健康福祉部関係1名(本庁勤務)、私は5月、6月と2回派遣され、いずれも川南町で豚殺処分の防疫活動に従事してきたので、その体験を紹介します。

2 最初の派遣(5月7日～15日)

7日宮崎空港に降り立つと、5月とはいえ日差しは暑く、Tシャツ1枚で十分な程でした。街は観光客も多くいたってのどかな様子、すっかり忘れていましたが、世間ではまだゴールデンウィークの最中でした。夕食をとりながら、前日いきなり12農場で発生があったことを知りました。これがまさにアウトブレイクの始まりでした。翌日から防疫活動に参加です。作業は、防疫服を2枚重ね着し、手元、足下をガムテープでとめた格好で行いましたが、この時期の宮崎には過酷なものでした。手袋、長靴には汗がどんどん溜まっています。作業の途中でトイレに行くということはありませんでした。一週間で5農場に入りましたが、どこでも畜主の涙、嘆き、やり場のない怒りがあふれています。ただ誰一人止めるとはいきませんでした。「必ずここで俺は再建する。もう一度ここで豚を始める」そんな力強い言葉で締めくくられました。聞けば川南町は開拓の町、全国から入植し、荒れた土地を開墾し現在にいたります。そんな土地への強い思いが、開拓魂が力強い言葉を言わせているようでした。最終日、処分作業ずっと一緒だったNOSAI宮崎の先生方と力強い握手で別れました「あきらめず頑張ってください」。宮崎の街角では口蹄疫キャンペーンを行っています。この一週間で県民挙げての総力戦と様相が変わりました。



宮崎市内の口蹄疫キャンペーンの様子

3 2回目の派遣、再び川南町へ(6月13日～21日)

6月30日までにすべての処分を終わらせるを合い言

葉に、最後の力を振り絞っているそんな中、2回目の派遣が決まりました。国も経験者の力を必要としているとのことでした。1ヵ月ぶりの川南町です、農場へ到着すると笑顔で近づいてくる人が2～3人います。

「千葉の先生でしょう。2回目きたね」そうです、一回目処分に行った農場の畜主、従業員の人達が手伝いに来てくれているのでした。再会を祝した後、「先生、川南もあと少しだよ、先生のいる間に発生農場は終わりにしよう」そう言われました。一週間の内、梅雨の影響で雨が5日間、晴天が2日間でした。晴天はまさに千葉県の真夏のようです(原稿を書いている今のような)。多くの人が熱中症で具合が悪くなっています。雨は激しく、防疫服を2枚重ねてもいすれ、雨と汗で下着までびっしょりになります。いよいよ20日川南町最後の疑似・患畜農場になりました。雨が降り続いていることだけが心配でしたが、今日で絶対ここを終わらせる、みんなの顔には強い気持ちが表っていました。心なしかいつもより搬出する重機をあやつる人のスピードが速いようです。16時過ぎにすべての処分が終了しました。手伝いに来ていた処分農場の人達、宮崎県の人達と笑顔を交わしながら「ようやくここまで来たね」みんな安堵の表情を浮かべていました。誰かが言いました「片山先生、3回目は来ないの」「来ないよもう少しで終わりじゃない」「都城で広がれば来るでしょう」「八百屋お七じゃないんだから、冗談止めてよ」

4 おわりに

今手元にNOSAI宮崎の先生から郵送されてきた手紙があります。「片山先生が2回目来られていたのは名簿で知っていました。ただ我々は、高鍋町の処分にかかりきりでお会いすることができずに本当に残念でした・・・」。派遣では防疫活動を体験するだけでなく、様々な心の交流がありました。紹介した以外にも派遣仲間とも連日芋焼酎を酌み交わし、通常の研修では得られない濃厚な交流となりました。体験だけでなくこれらすべてが貴重な財産です。最後に「明けない夜はない」これは川南町の最後の発生農場を終了し、みんなの顔を見たときに浮かんだ言葉です。これから始まる再建の道は決して平坦ではないと思います。でも、原野を一から切り開いた開拓魂があれば絶対出来ると信じています。「明けない夜はない」頑張れ宮崎！

価格補償事業補てん金単価について

【平成22年度第1四半期(平成22年4~6月)】

1 肉用子牛生産者補給金制度・肉用牛繁殖経営支援事業

(単価:円)

品種 区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の 肉専用種	乳用種	交雫種
保証基準価格 (A)	310,000	285,000	204,000	116,000	181,000
合理化目標価格 (B)	268,000	247,000	142,000	83,000	138,000
平均売買価格 (C)	381,600	277,200	168,200	84,400	250,000
補給交付金単価 (A) - (C)					
※(C)が(B)を下回る場合 (B) - (C) × 0.9 が積立金から加算	—	7,800	35,800	31,600	—
発動基準価格 (D)	380,000	350,000	250,000		
支援交付金単価 (D) - (C) × 0.75 ※(C)が(A)を下回る場合 (D) - (A) × 0.75 (100円未満切り捨て)	—	48,700	34,500		

2 肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)

(単価:円)

区分	肉専用種	交雫種	乳用種
平均粗収益 (A)	822,668	520,946	312,714
平均生産費 (B)	879,536	567,292	382,686
差額 (C) = (A) - (B)	△56,868	△46,346	△69,972
補てん金単価 (C) × 0.8 (100円未満切り捨て)	45,400	37,000	55,900

3 養豚経営安定対策事業

豚枝肉平均価格(中央卸売市場及び指定市場における「並」規格以上の重量加重平均価格) (A)	豚枝肉1キログラム当たり 448円
保証基準価格 (B)	豚枝肉1キログラム当たり 460円
保証基準価格と豚枝肉平均価格の差額 (A) - (B) (C)	豚枝肉1キログラム当たり 12円
養豚補てん金単価 (C) × 0.8 × 77キログラム(10円未満切り捨て)	1頭当たり 730円

日本養豚協会(JPPA)統合後初の総会開催される

中央の養豚団体である(社)日本養豚協会と日本養豚生産者協議会との統合による組織一本化を果たしてから、初めての総会(平成22年度通常総会)が7月21日東京・ホテルグランドパレスにおいて全国から生産者他283名が出席し盛大に開催された。

総会は平成21年度事業報告並びに収支決算、平成22年度事業計画並びに収支予算と、この秋にも予定されている一般社団法人への移行に関する定款変更などの議案が審議され承認された。

任期満了に伴う役員改選では25名の理事の互選により志澤勝会長が再任され、またブロックから副会長6名と事務局を預かる専務、常務は右の通り選任された。

JPPAとして現会員数約1700名(繁殖雌豚概算:35万頭)をいかに増やしていくかが第一の課題。本年度未加入の養

豚生産者に呼びかけ、全国の繁殖雌豚頭数の60%に相当する54万頭に拡大させ組織強化を図っていく計画です。

総会後の懇親会には、山田正彦農林水産大臣がかけつけ、口蹄疫が終息に向かっていることを報告すると共に、それを乗り越えて日本の養豚産業を発展させなければならないことを強調された。

会場内で養豚生産者の声に直接耳を傾け激励され、記念写真の求めには気さくに応じるなど、生産者を想う大臣との印象を強く受けた。

生産現場の厳しい状況が続く中、組織の拡大と強化は不可欠であり、『生産者の、生産者による、生産者のための組織』として、真価が問われる。われるのはこれから、県域チェックオフ組織としてナイスポートチバ推進協議会の果たす役割は益々大きいものと考える。



(生産振興部 加藤)

10月2日(土) 船橋競馬場へ!!

入場無料 11:00 ~ 15:00

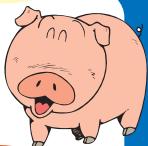
会場／船橋競馬場

電車 京成「船橋競馬場駅」下車 徒歩5分
JR「南船橋駅」下車 徒歩10分

車 花輪I.C.から車で1分/駐車場有
(840台・当日無料)



千葉県畜産フェア



(後援 千葉県・船橋市)

畜産ウルトラクイズ

上位5名の方に豪華な畜産品を
プレゼント! 参加者全員に
もれなくプレゼントがあります。

(小学生以上 250名)

1回目 12:30~(整理券配布は 12:00~)

2回目 14:00~(整理券配布は 13:30~)

畜産物の販売

豚肉・焼肉・フランク・たまご
牛乳・乳製品・アイス・はちみつ等

農産物の販売

・米・野菜・水産物等の販売

ペットのしつけ相談 健康相談

※ペット持ち込み禁止のため
診察などはできません。



会場内ご案内図



千葉県畜産フェア

無料駐車場

駐車場
出口

駐車場
入口

その他ミニゲームなどイベント盛りだくさん!

同時開催

ふれあい広場

乗馬体験

乗馬体験でパドック一周!



フリーマーケット

人気のフリーマーケット。
掘り出し物もあるかも!!

(4)

おしらせ 11/3(祝)

JBCが船橋にて開催

(ジャパンブリーディング
ファームズカップ)

当日会場内にて千葉県畜産品を

無料配布



【お問い合わせ】●千葉県競馬組合 船橋市若松1-2-1 TEL 047-431-2156

●(社)千葉県畜産協会 千葉市中央区千葉港4-3 TEL 043-242-6333

安全！安心！美味しい！千葉の畜産

ちばを お腹いっぱい召し上がり！！

千葉の畜産ブランド

千葉のビーフは
全国 15 位

ちばの牛肉

- かずさ和牛
- みやざわ和牛・みやざわ牛
- 千葉しあわせ牛
- しあわせ絆牛
- しあわせ満天牛
- 千葉若潮牛
- 林牛
- 八千代黒牛・八千代ビーフ
- 卯の花牛
- ナイスビーフ
- 千葉しおさい牛

千葉県産牛肉は、温暖な気候の中で、
育てられた選りすぐりの牛肉です。



ちばのたまご

- 日本の卵 メガラン卵
- おいしい卵の関畜
- 千葉南総のたまご・おいしいたまご屋さん
- 秀鶏園のこだわるたまご ●桜らんらん
- 房総そだち うこっけいのたまご
- 手作り飼料の手作り卵 ●鶏卵牧場の庭先たまご
- 名古屋コーチン ●鈴卵
- あぐり こだわりのたまご
- 農場直送 地養卵
- ほどたの玉子 ●あさひのたまご
- こめたまご



全国No.1 の
卵を食べよう！

ちばの鶏肉

- 錦爽どり
- 錦爽名古屋コーチン
- 水郷赤鶏
- 房総地どり

※畜種別順位は平成 20 年の出荷量とする。

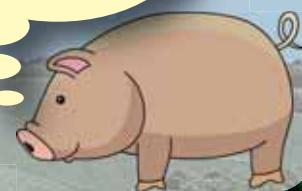
チバザポーク

- マーガレットポーク
- 林 SPF
- ひがた椿ポーク
- 房総ポーク C
- 東の匠 SPF 豚
- 匠味豚
- 元気豚
- 千葉県産いもぶた
- ダイヤモンドポーク
- かぶらき SPF 豚
- サンライズ黒豚
- 千葉さわやかポーク



「チバザポーク」とは、安全で安心な
生産・流通体制が約束された千葉県
産銘柄豚肉やその加工品に付けられた
共通名称です。

千葉のポークは
全国 5 位



ちばの酪農

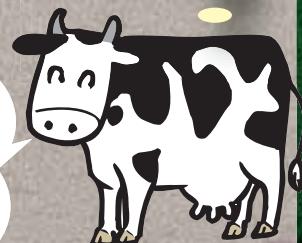
- 日本ミルクコミュニティ(株)野田工場
- 日本ミルクコミュニティ(株)富里工場
- 古谷乳業(株)成田工場
- 協同乳業(株)千葉工場
- コーシン乳業(株)八千代工場
- 千葉酪農農業協同組合
- 千葉北部酪農農業協同組合
- 君津牛乳(有)
- 新生酪農(株)千葉工場



千葉の酪農は
全国 3 位

県内の酪農家が搾った生乳は、その日
の内に乳業工場へ出荷され、次の日には
スーパーの店頭に並びます。皆さん
学校給食で飲んでいる牛乳は千葉県産
生乳 100% です。

新鮮な千葉県産生乳を召し上がり！



千葉のたまごは
全国 1 位

社団法人 千葉県畜産協会

千葉県千葉市中央区千葉港 4-3
TEL : 043-242-5417 (代)

飼料用米で特徴ある畜産物生産を

千葉県畜産総合研究センター

バイオエタノール需要の増加等により穀物の国際価格は不安定な状態を続けており、配合飼料価格も一時の高騰は収まつたものの依然高止まり状態であり、畜産農家の経営を圧迫する大きな要因となっています。

一方、水田農業対策も急務となっており、今後、飼料専用品種等を利用した飼料用米の生産拡大が見込まれます。このため、畜産総合研究センターでは、プロジェクトチームを立ち上げ、効率的な飼料用米の利用方法を確立し、畜産農家の経営安定に役立てるとともに、飼料自給率の向上をめざして、試験を実施しています。

本稿では、現在までに得られた成果と今後の計画について概要をご紹介します。具体的データなど詳細はお問い合わせください。

現在までの成果

試験課題

- ◎泌乳牛への飼料米ソフトグレーンサイレージ給与効果の検証
- ◎飼料用米の養豚飼料としての利用技術の確立
- ◎飼料用米の養鶏飼料としての利用技術の確立

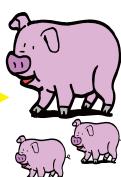
飼料用米給与による効果や影響の確認

乳牛



- ・泌乳中後期牛にイネSGS（未乾燥モミ米の粉碎サイレージ）を配合飼料の20%代替した区と40%代替した区を設けて慣行法との比較試験を実施。
- ・飼料乾物摂取量、乳量、乳成分等に差はなし

養豚

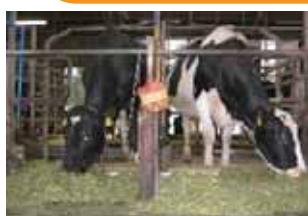


- ・LWD肥育後期豚に玄米（粉碎）をトウモロコシの50%代替した区とモミ米（粉碎）をトウモロコシの20%代替した区を設けて慣行法との比較試験を実施。
- ・発育に有意差なし、モミ米給与では肉質、脂質も差はなし、玄米給与で脂肪酸組成に変化

養鶏



- ・白玉卵産出鶏に玄米（丸粒）をトウモロコシの100%代替した区と50%代替した区を設けて慣行法との比較試験を実施。
- ・同等の産卵成績、糞中乾物量が減少、飼料用米の粗蛋白質含量の把握必要



今後の計画

試験課題

- 飼料用稻・米の効率的な給与による乳用育成牛の哺育・育成管理技術の開発
- 黒毛和種去勢牛に対する粉米給与が肥育成績に及ぼす影響
- 飼料用米と規格外カンショによる高品質豚肉生産技術の確立
- 肉用鶏における飼料用米給与技術の開発

肉用牛や肉用鶏への飼料用米給与による効果や影響の確認、さらに各畜産物における高附加值化の検討

お問合せ⇒企画環境部 山田真希夫

TEL:043-445-4511 FAX:043-445-5447 メール:chikuse@mz.pref.chiba.lg.jp



ちば畜産レディースネットワーク会報 通算第2号

モ~モ~フ~フ~コケコッコ



千葉県内の畜産に携わる女性のみなさんの会報です。
今号からネットワークちばの誌面で発行いたします。

活動記録

1 平成22年度総会：平成22年6月8日（火）午前11時～午後3時

東金市 エストーレホテル 50名参加

- ・「総会」「一流シェフによる紫陽花の宴」「大木秀子氏講演による研修会」等盛会裡に終了



シェフの料理にみな満足 畜産物は会員の関係する材料で 笑いを交えて 大木氏の講演

2 情報交換会：平成22年7月28日（水）

午前11時～午後3時

千葉県畜産総合研究センター会議室

22名参加

- ・畜産フェアへの取組、今後の研修会、レディース独自の情報発信等について協議
- ・畜産総合研究センターの研究概要、女性研究員（8名）の研究紹介後、意見交換



3 レディース会員から提案があり、総会時から募金活動を始めた宮崎県口蹄疫の義援金（53,000円）を宮崎県畜産協会へ8月上旬に送金しました

4 千葉県農山漁村女性団体ネットワーキーラーニング会議（8月27日）に、柴会長及び大松副会長が参加

活動予定

- 1 千葉県畜産フェアへの「レディース」の取組について
 - ・10月2日（土）午前11時～午後3時、船橋競馬場において開催予定
 - ・「レディース」は昨年好評であった「ミルクくず餅」を 調理・提供予定
 - ・会員の方々の積極的なご来場並びに「ミルクくず餅」へのご参加、心よりお待ち申し上げます。
 (事務局 新城)



ミルクくず餅
今年もやります

会員だより

「おいしさの発信も畜産現場から」 館山市 須藤陽子(酪農)

平成22年5月、牧場内にアイスカフェ「CowBoy」がオープンしました。

中学生の頃から牛乳を使ったレストランを出そうという夢を抱き、高校時代に調理師免許を取得した娘が、ついに夢への第一歩を踏み出しました。

このアイスは牧場のミルクと新鮮玉子を主にした液状の材料を素に、お客様の目の前で作るタイプのもので、様々な季節のフルーツを混ぜ合わせることもできます。今年の夏は実家で栽培するアップルマンゴーのアイスが大好評でした。

4月に発生した宮崎県の口蹄疫の影響で酪農体験の受け入れを中止した我が家では、私は子供達との触れ合いが無くなってしまって、心に穴が空いたようでした。

また、オープンしたアイスの店にはお客様にいらしていただきたいのに、農場への立ち入りは一切できないようにと配慮しながらの営業開始で、心もとない日々でした。

それでも、いらしていただいたお客様には美味しいものをということで、一つ一つ注文を受けてから丁寧に作ってお出ししてきました。直接いらした方々と対話できる点では体験受入と同じような気がします。牧場で出されるミルクやアイスを口にした時、「おいしい！」と喜ばれる笑顔に牧場で健康に牛を育てる苦労が報われた気持ちにもなるものです。そして益々おいしさの原点である素材の追求、畜産農家としての責任も気持ち新たにかみしめています。



NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信

先の通信欄では、平成22年度に取り組むこととなった3本の新規事業等を紹介しました。今回は、このうちの動き始めた2本の事業についてご紹介いたします。

1. 畜産経営支援組織連携強化事業の近況について

<p>① 当サポートセンターとしてはまだ本格的な稼働ではありませんが、「大家畜DBシステム入力実務者研修」にて、一部の会員が千葉県畜産協会から肉牛部門の指導を受けました。今後は、酪農部門も含めた多くの関係者を対象に同研修を実施したいと計画しております。</p> <p>② 8月6日、県内の主な畜産関係組織の実務者を召集し、当事業の説明を行うとともに各組織の要望等を聞き取りました。各要望をとりまとめ、各組織連携のもとに職員の指導技術を向上させるための研修等を開催する予定であります。</p>	<p>③ 8月24日、千葉県畜産協会主催の「畜産物安全安定供給相互理解体制推進事業県域委員会」に当会員5名が特別参加し、自給飼料生産利用に関する現地研修を受けました。イネWCSの生産と利用の状況を初めて見た会員もあり、実に有意義な研修でした。</p> <p>④ 9月3日、中央畜産会主催の「生産衛生技術向上研修」に当会員1名が参加しました。今後、生産現場での衛生に関する支援に大いに役立つものと期待しております。</p>
---	--

2. 生産コスト低減畜産生産技術開発推進事業の近況について

今回取り組んでいる課題は、河川堤防の刈り草を活用した乳牛用発酵TMR飼料の開発による生産コスト削減効果について評価するものです。

その主な内容は、収穫調製・TMR調製・給与実証の調査です。このうち、5月から6月末にかけて、利根川の堤防左岸（河口から71、72、73km地点）とその支流手賀川の堤防両岸（利根川との合流点から1、2、3、4、5、6、7km地点）の植生について、炎天にもかかわらず、くまなく調査を行いました。

この植生調査には千葉県農業大学校の学生も数名参加し、卒業論文の課題の一つになっています。（事務局 高梨）

◎入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは…

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局
 (社)千葉県畜産協会内
 TEL:043-242-6333
 FAX:043-238-1255

正会員 58(内、団体8)
 賛助会員 2(団体)

「食の安全・安心」のための第1歩は、
 「法令遵守」であることを改めて認識してください。

編集後記

4月20日に衝撃的ニュースとして始まった「宮崎県口蹄疫」。世間の耳目を集めに集める中、国及び宮崎県や全国から馳せ参じた応援志願者の懸命の防疫活動により、約29万頭の牛・豚等を殺処分し、ようやく終息の段階となり、関係者一同ホットして反面、その爪痕の深さに呆然とする思いもあるかと存じます。

宮崎県内に封じ込めることができたことは、不幸中の幸いであり、今回の口蹄疫の凄まじい伝染力を考えると奇跡的ともいえると思います。千葉県から多くの方々が応援に行き、中には2度の派遣に応じた方もいらっしゃいました。

今回の未曾有の出来事を「対岸の火」と考えず、むしろ「他山の石」としてとらえ、「悪性伝染病」への備えの認識を新たにして取り組む必要性を多くの方が感じたことと思います。

さて、去る6月23日に当協会の平成22年度第1回通常総会が終了し、一部役員の補選選任がなされ新たな陣容で事業推進に取り組んでいるところです。口蹄疫問題等で遅れていた事業も方向性が定まり推進に拍車をかけておりますが、一部未だに不透明な事業もあり苦慮するところです。不確かな情報で動くことはなお一層混乱を助長することとなりますので、不明な点がございましたら、お問い合わせの程よろしくお願ひいたします。（事務局長 新城）

総務部	TEL 043-242-5417(代)	FAX 043-238-1255	info@chiba.lin.gr.jp
企画経営部	TEL 043-242-6333	FAX 043-238-1255	takeda@swan.ocn.ne.jp
酪農肉牛課	TEL 043-242-8299	FAX 043-238-1255	miyagami@swan.ocn.ne.jp
養豚課	TEL 043-241-3851	FAX 043-241-3853	kato@np-chiba.jp
衛生環境部	TEL 043-241-1738	FAX 043-241-3853	chieishi@aioros.ocn.ne.jp